

風景ビジョンの浸透について ～取組状況の報告～

令和6年10月31日 令和6年度宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会

地域創生課 地域創生係

◆ 宍粟市風景ビジョンについて



日本一の風景街道の創造
「宍粟市風景ビジョン」 (令和4年10月策定 宍粟市) ー概要版ー

豊かな自然と受け継がれてきた歴史、そして人の営みが今の風景をつくっています。市では、これから20年、30年、さらにその先に向けて、宍粟市をより魅力的なまちに発展させていくため、風景づくりの方向性を示す「宍粟市風景ビジョン」を策定しました。市民、地域団体、事業者、行政が協働し、宍粟市の風景を未来に引き継ぐとともに新たな価値観や多様な関わりによる魅力ある風景づくりを推進します。また、広大な宍粟市に点在する風情がさまざまな形でつながり、さらなる風景の魅力化とより豊かな市民生活を実現する「日本一の風景街道」をめざします。



このビジョンはどんなもの？

風景を守り育てていくことの大切さを考える

- 風景づくりの基本的な考え方や方向性を示すもので、「風景の意味や価値、大切さ」などの気づきを与えるものです。
- 風景づくりがめざすべき未来の姿を私たち皆で共有するものです。
- 市民、地域団体、事業者と行政が、日々の生活の中に風景の視点を持ち意識することで、それぞれの立場に応じて風景づくりを展開します。



なぜ風景づくりに取り組むの？

地域で守られてきた風景の維持が難しくなる

- 急激な人口減少と少子化で地域の担い手が不足し、地域活力の低下なども懸念されます。
- 全国の自治体で人口維持に向けた取り組みが強化される中、他の自治体に対しての独自性や優位性が必要となっています。

風景づくりの意義

- 1 市民生活が豊かに
- 2 地域に新たな活力
- 3 コミュニティの強化

- 経済効果と個人の豊かな生活につながり、地域への誇りや愛着を育みます。
- 魅力ある風景が今ある風景を守り、新たな風景をつくっていく力を生み出す源泉になります。

宍粟市では令和4年10月に、市をより魅力的なまちに発展させていくため、風景づくりの方向性を示す「宍粟市風景ビジョン」を策定しました。

「日本一の風景街道」をスローガンに、市民、地域団体、事業者、行政が協働し、宍粟市の美しい風景を未来に引き継ぐとともに、新たな価値観や多様な関わりによる魅力ある風景づくりを推進しています。

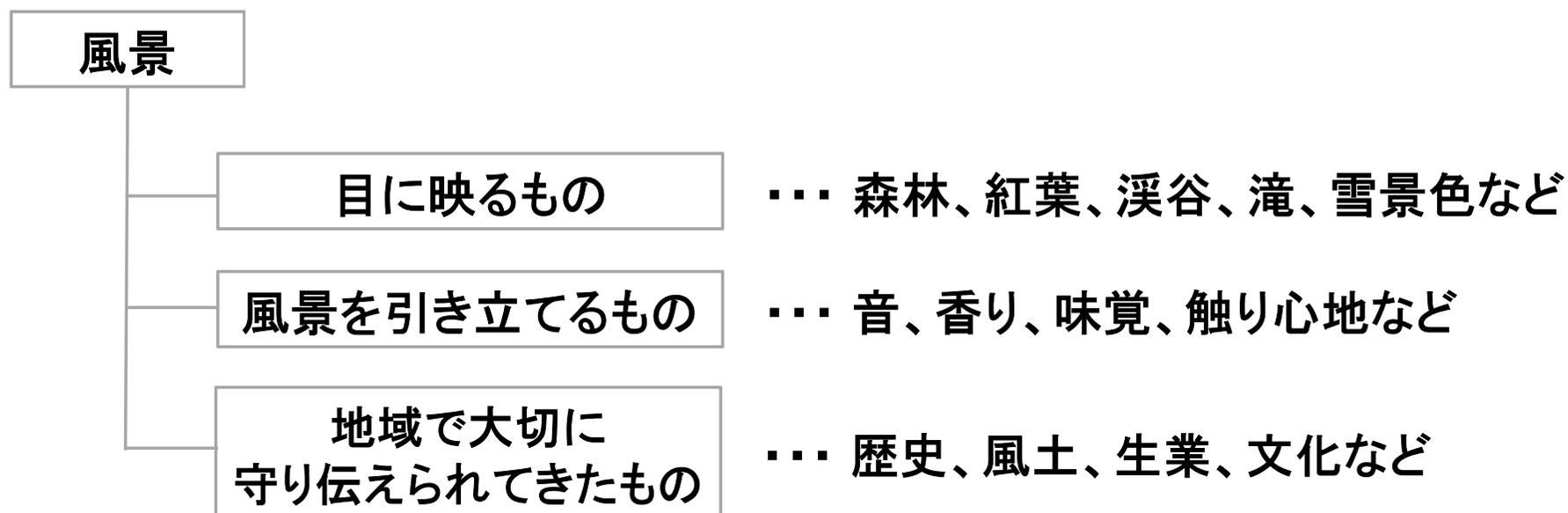
「宍粟市風景ビジョン」はこちらのQRコードからご覧いただけます→



◆宍粟市における風景とは

《風景の定義》

目に映るものだけでなく、その背景にあるすべてを包括したもの



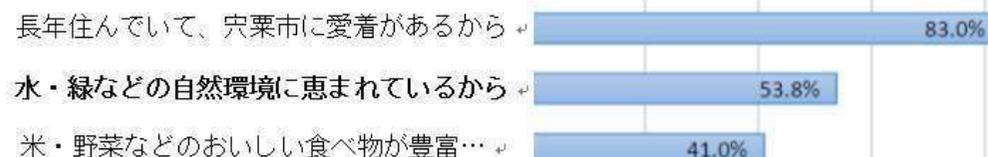
◆風景ビジョン策定の目的①

《市民の思いのために》

過去の市民アンケートの結果から、自然環境の豊かさや森林資源を活かした風景づくりを進めることは、多くの市民の希望に一致するものであると考えられます。

また、タウンミーティングにおいても、残したい風景・つくりたい風景をテーマに、たくさんの意見が出されました。

■この地に住み続けたいと思う理由（上位3位まで）



■将来、どのようなまちであってほしいか（上位3位まで）



第2次宍粟市総合計画後期基本計画及び第2次宍粟市地域創生総合戦略の策定に係る市民を対象としたまちづくりアンケート（H31.3実施）結果より

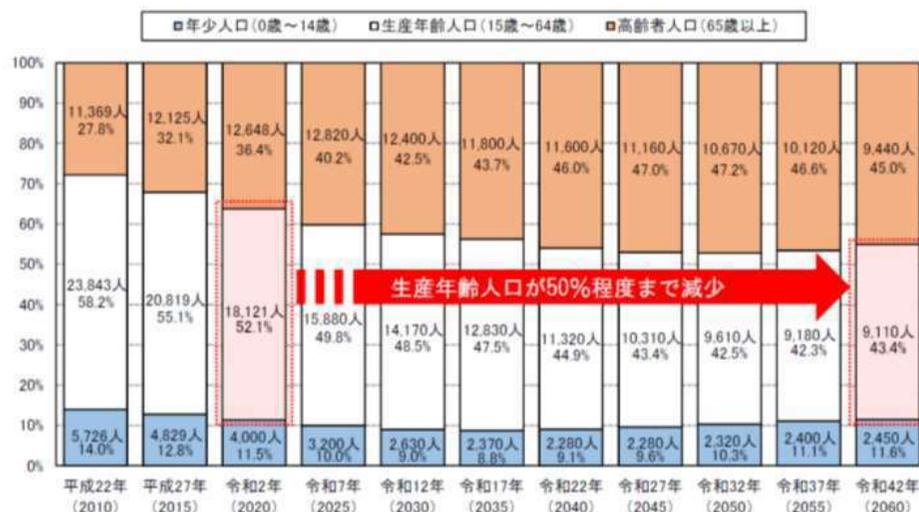
◆風景ビジョン策定の目的②

《選ばれるまちになるために》

宍粟市では、人口減少、少子・高齢化が進んでおり、地域の担い手不足などにより、先人から受け継いできた風景の維持が難しくなっています。

全国の各自治体で、人口維持に向けた特色あるまちづくりが進められるなか、「選ばれるまち」になるため、風景づくりの果たす役割は大きくなっています。

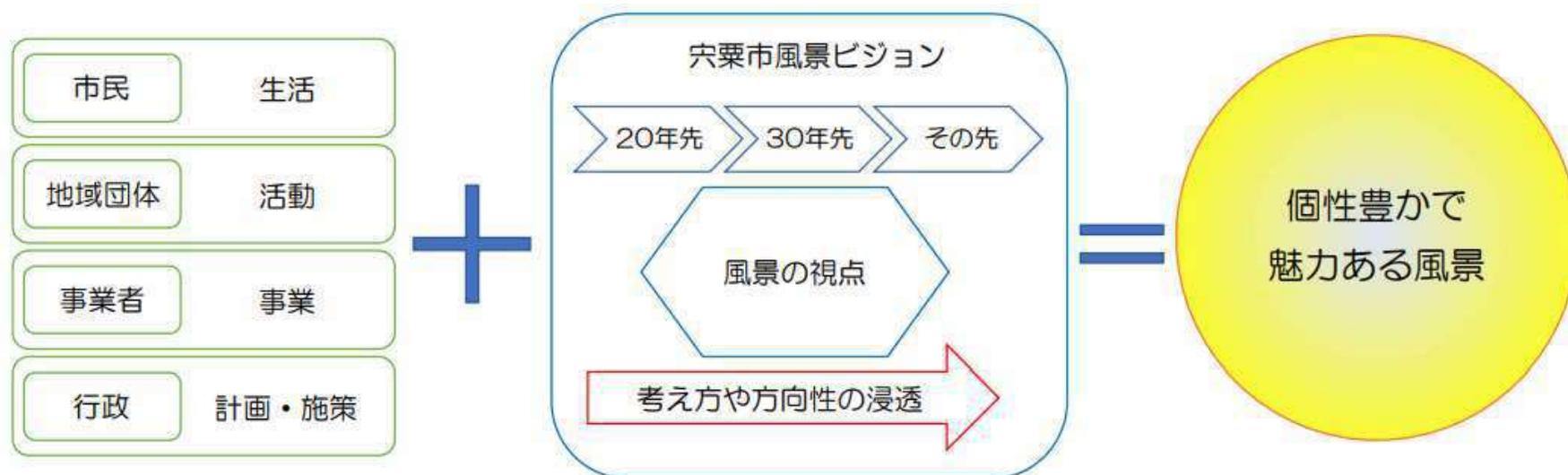
■人口の将来展望 年齢3区分別の人口推移



◆風景ビジョンの浸透についての考え方①

《風景ビジョン浸透のイメージ》

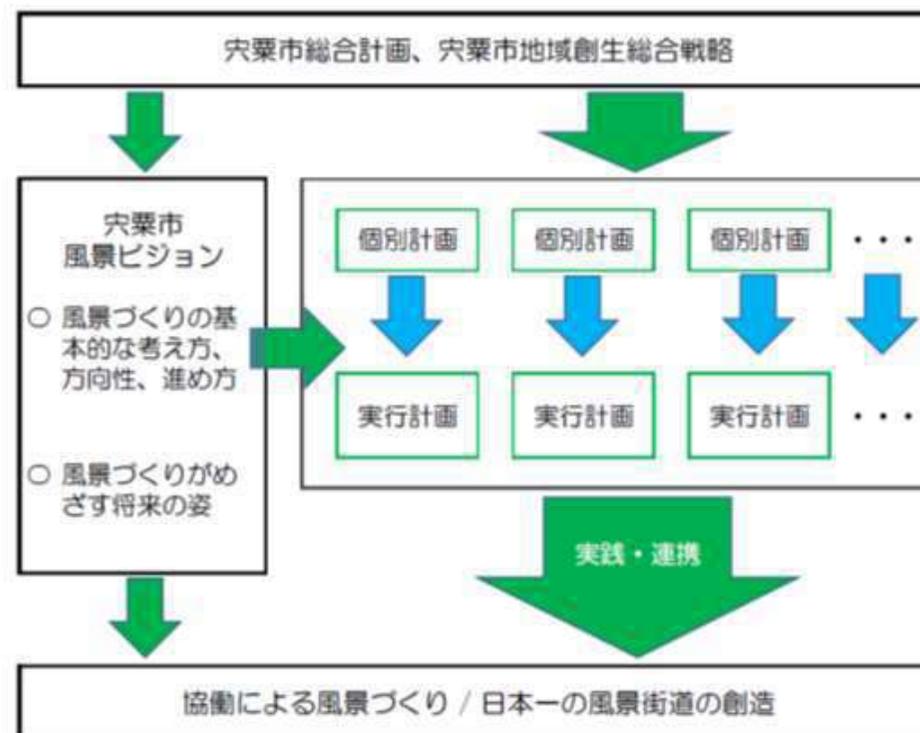
「風景ビジョン」を市全体に浸透させていくためには、市民・地域団体・事業者・行政(関係主体)が、20年先、30年先、さらにその先を見据えながら、日常生活の中に風景の視点を持ち意識することが必要です。



◆風景ビジョンの浸透についての考え方②

《風景ビジョンと計画との関係》

行政においては、「宍粟市総合計画」における基本施策や、「宍粟市総合戦略」における景観の保全を目的とした風景づくりに加え、基本計画から派生する各個別計画の方針に風景の視点を取り入れ、整合性を図りながらこれからの風景づくりを展開していくこととしています。



◆風景ビジョンの浸透について(当課の取組状況の報告)

風景ビジョンの全戸配布と記者発表(令和4年度)

広報の配布に合わせて風景ビジョン(概要版)を市内全戸に配布し、市民への周知を図りました。また、記者発表も行いました。

しそチャンネルでの風景ビジョン番組の放送(令和4~5年度)

しそチャンネルで、風景ビジョンについての説明や風景づくりに関する取組について紹介する番組を3回に分けて放送しました(現在も定期的に再放送を実施)。



風景ビジョンInstagramの運営(令和4年度～)

「風景を通して宍粟の魅力を発信！」をテーマに、Instagramで市内各所の自然景観等の魅力的な風景写真を紹介しています。

市民だけでなく、海外を含めた市外在住者や、若年層へのアプローチのひとつとして、取り組んでいます。



後世に伝えるふるさと風景展(令和5年度～)

「応募して、あなたの“宍粟”写真」をテーマに、市内の風景写真等を募集しました(R5.6～R6.3)。応募作品は、デジタル写真展「後世に伝えるふるさと風景展」として、市役所や市民局のロビー、市の公式サイト、しそチャンネル等で紹介しています(R5.12～順次展示中)。

本事業は、宍粟らしい風景や風景に関わる活動を伝えることと、風景づくりへの取組が評価される場をつくることで、風景ビジョンの浸透を進めることを目的としています。

【応募総数】 115点



(作品の例)

作品名	ひじ たち 比地の滝
氏名 (ペンネーム)	藤田 奏詩
	
場 所	宍粟市山崎町 国見の森 周辺
コメント	国見の森公園の奥にある比地の滝に行ってきました。滝付近はとても涼しく心地よい場所となっています。周囲の苔が幻想的な雰囲気を出しています。この風景を未来に残していくために、たくさんの人に伝えていきたいです。そして比地の滝以外にも宍粟市の豊かな自然を残していきたいです。



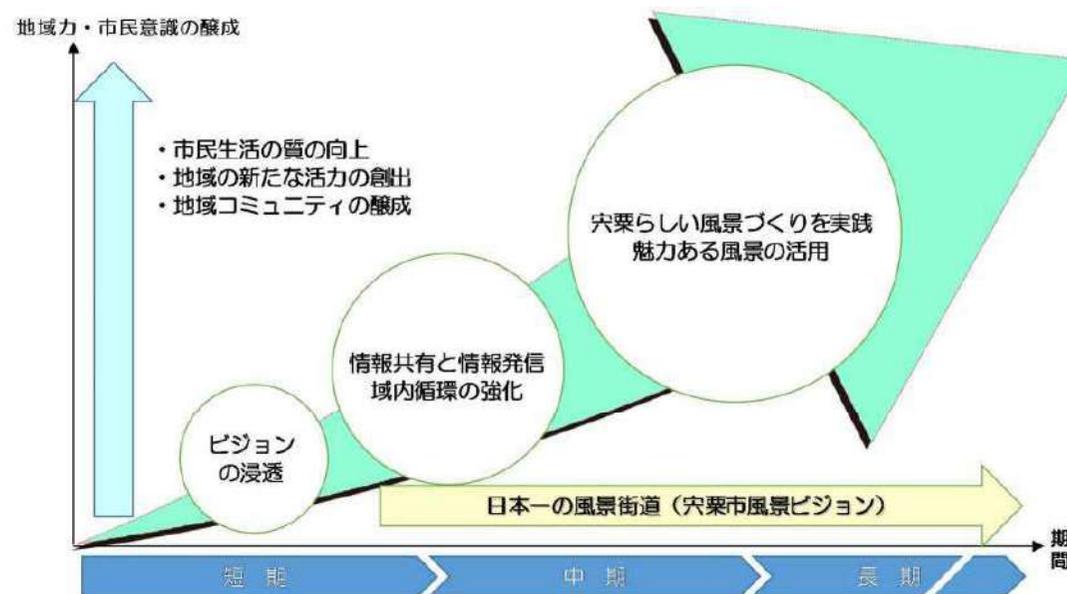
10



◆現時点での課題と今後について

「風景ビジョン」は「木育」とは異なり、言葉自体が宍粟市独自のものであるということと、ビジョン(将来の構想・展望)を共有させるという性質上、市全体に広く、分かりやすく広めていくことに難しさを感じています。

これから「風景ビジョン」を浸透させていくためには、新たな取組が必要になると考えております。
 どのような取組が考えられるか、みなさまにご意見やご助言をいただければと思います。



今後検討したい取組例

関連団体や市役所内部
へのはたらきかけ

市民向けの取組

『風景動画』

ドローンを使った動画やVR動画など
インパクトのある動画の制作と活用

『団体との連携』

観光協会や地元の事業者と連携し、
イベントや広告等のPRの中で
風景ビジョンを関連付けていく

『小学生向け副読本』

風景ビジョンの要素を含む
社会科副読本の制作

『風景のタイムカプセル』

市民に残したい風景を募集し、
数年後の姿を紹介するプロジェクト
(しそチャンネルやパネルの制作)

『各所管事業への浸透』

日本一の風景街道を意識した
各課の事業の企画・立案、
既存事業の見直し等

